

一部週刊誌で話題となっている12月29日琵琶湖周辺での大地震の噂について

12月29日に一部週刊誌等で琵琶湖周辺でM7を超える地震発生を予測している人がおり、その記事が掲載されています。一般に日時を指定した予知は極めて困難です。我々は予知は可能と考えていますが、非常に大きな異常が観測されていれば「明日発生するかもしれない」という事までは言えても、それ以上言及精密に言及するのは不可能と考えています。これまでいくつかの地下天気図を紹介してきましたが、3.11以降、日本列島の地震活動のパターンが大きく変わってしまい、長期間の解析が極めて困難な状態が続いていました。地下天気図と一般の天気図との最も大きな違いは、天気図はその日の観測データだけで描く事ができますが、地下天気図は過去の地震活動との差異を天気図のように表現したものです。そのため、バックグラウンドの地震活動を評価するという事が極めて重要な要素となります。

さらに天気図にも地表天気図、高層天気図等、同時にいくつもの天気図があります。地下天気図の場合は、ターゲット（将来発生するであろう地震の大きさ）ごとに天気図が異なってきます。M8クラスを予測したい場合とM7クラスを予測したい場合とでは、異なった天気図（異なったパラメータにより解析）となります。

3.11から20ヶ月ほどが経過し、東海地方から西ではようやく10年以上のデータを使って解析が可能となってきました。今回お見せする地下天気図[®]は、これまでの解析でM7クラスの地震を最も効率よく検知できたパラメータを使用しています。従いまして今までの地下天気図とは異なった様相を示しています。

結論として現在琵琶湖を含む関西地方には顕著な地震活動の異常は観測されておりません。これまで富山、琵琶湖、京都周辺での静穏化というものを紹介してきましたが、それは3.11以降だけを見ると静穏化しているのですが、長期的な視野から見れば、元の状態に戻りつつあるとも判断できます。

ここでおさらいの意味で地下天気図についての基礎知識を述べておきます。

1) 地下天気図とは

地震活動の異常を天気図のように可視化して表現したものです。

2) 何を測定しているのですか？

具体的には地震発生カタログを用いて、RTM法という解析手法を適用したものです。

3) 色は何を示していますか？

青い領域が地震活動が従来より低下（静穏化）した領域

赤い領域が地震活動が従来より活性化した領域 となります。

4) 何に注目すればよいのですか？

実は大地震の前兆現象として最も顕著なのが「地震活動の静穏化」と呼ばれる現象です。これは地下天気図では青く表現されます。一般的には静穏化が進行し、終了した後に地震が発生します。

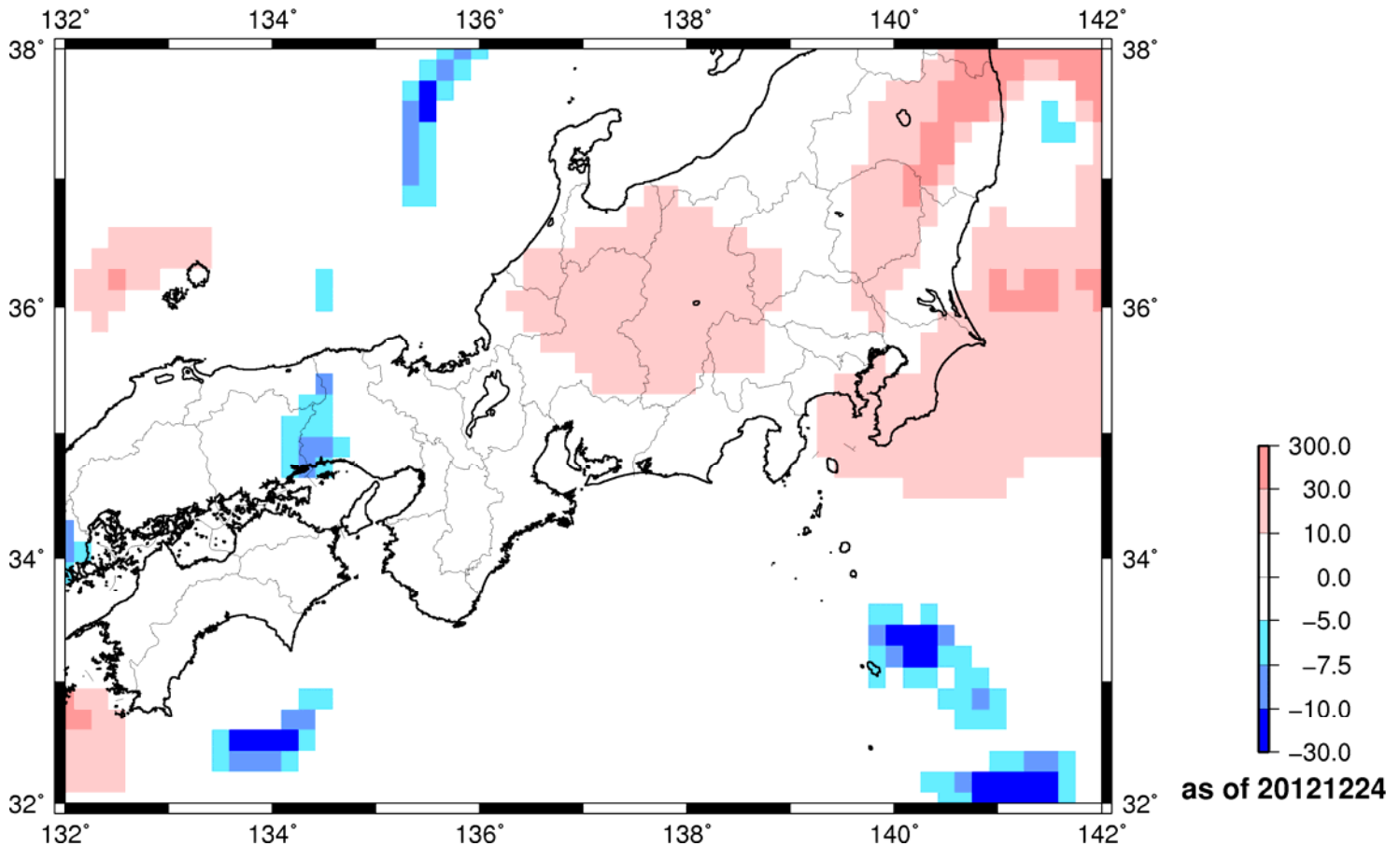
なお地下天気図については現在より詳細な解説ページを準備していますが、まずは以下をご覧ください。

<http://www.sems-tokaiuniv.jp/EPRCJ/rtm.html>

http://www.sems-tokaiuniv.jp/EPRCJ/data/RTM_description2.pdf

2012年12月24日の時点での東海・近畿地方の地下天気図

M20-90_D00-100_Rz050_T1.0_xr2_xt2_20010101-20121224_RTMgrid_200x120.dat



上の地下天気図で中部地方や関東地方の赤い領域は地震活動の活発化がまだ続いている地域です。故青い領域は静穏化領域ですが、http://www.sems-tokaiuniv.jp/EPRCJ/data/RTM_description2.pdf の阪神大震災等の事例をみていただくとわかるのですが、領域が広くなく、顕著な異常とは言えません。年末・年始はM7クラスが東海・近畿地方で発生する可能性は極めて小さいと考えています。

また参考までに2012年の上記パラメータ（陸域でのM7クラス予測をめざしたもの）による地下天気図がどう推移したかをアニメーション化しました。

<http://www.sems-tokaiuniv.jp/RTM/R50T10.gif>

右下に as of 2012.01 等という数字がでますが、これは時刻を年単位で表現したものです。

2012.01 -> 2012年1月1日

2012.05 -> 2012年7月1日 という意味です。このアニメーションは37枚の絵で出来ており、実際には10日おきの地下天気図となっています。